



野村 万蔵 (NOMURA Manzo)

狂言和泉流野村万蔵家九代目当主

学習院大学法学部政治学科二年修了。

七世野村万蔵（現・初世萬、人間国宝、文化功労者）の次男。祖父の六世万蔵（人間国宝）及び父に師事。幼少より祖父、父から厳しい稽古を受け、4歳にて狂言「靱猿」の子猿役で初舞台を踏む。狂言師の修行の節目において、「奈須与市語」（昭和60年）、「三番叟」（昭和62年）、「釣狐」（平成2年）、「花子」（平成7年）等、秘曲・大曲を披く。昭和天皇在位50年、60年の記念式典では、宮中にて狂言を演じた。平成17年本家の名跡九世万蔵を襲名。重要無形文化財総合指定保持者。和泉流職分会代表幹事（平成27年～）。東京藝術大学非常勤講師、桜美林大学非常勤講師、劇団青年座研究所講師。公益財団法人としま未来文化財団評議員（平成27年～）。エンジン01文化戦略会議幹事（平成29年～）。著書に「狂言へござれ」（平成29年1月発行、淡交社）。

野村万蔵家はかつて北陸の加賀前田藩お抱えとなり、初代より狂言棟取役を仰せ付けられた家柄。明治維新により上京後も、本郷の旧前田侯爵邸での能楽上演に出勤した（五世万造）。

<現在>

狂言野村万蔵家の品位ある古典的な芸風を受け継ぎ、その伝統と歴史の伝承につとめる。東京と地方都市において、一門の組織『萬狂言』の定例公演や普及公演を行なうほか、学校公演として全国各地の小中高校に赴き青少年に向けた狂言鑑賞教室やワークショップを開催。また、国内にとどまらず、アジアやヨーロッパなど海外公演にも積極的に参加している。狂言の可能性を追求する新しい試みとして、お笑い界のリーダー的存在である南原清隆氏（ウッチャンナンチャン）と共に、古典の笑いと現代の笑いを融合した「現代狂言」を旗揚げ（平成18年）し、全国公演を展開。また English Speaker 向けの狂言会「YOKOSO KYOGEN」と銘打ち、タレントのセイン カミュ氏と共同作業するなど、新しい事への挑戦を続けている。平成29年より、歴史家の磯田道史氏と協同し、史実に基づく新作狂言の創作を開始。